

# THE ROOF



佐藤潤四郎《オブジェ・ガラスを吹く人》  
金工（鍛鉄） 当館蔵

## Contents

- 企画展「生誕 130 年記念 北川民次展—メキシコから日本へ」
- 企画展「武井武雄展」
- インタビュー
- 報告「奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差するヨーロッパ版画」
- Report
- Information

# 武井武雄展

たけい たけお

T a k e i T a k e o

幻想の世界へようこそ



《どうぶつえん》1929年 水彩／紙

大正から昭和期にかけて活躍したマルチアーティスト、武井武雄（1894—1985）。童画家、版画家、デザイナー、玩具作家、教育者として類まれな才能を次々に発揮し、多彩な活動を繰り広げました。この春開催される「武井武雄 幻想の世界へようこそ」は、生涯130年を記念し、武井武雄の全貌を紹介する展覧会です。

大正六年に鈴木三重吉によって発行された雑誌『赤い鳥』を中心に、子どもにふさわしい芸術を求める意識が世に育まれた時代に、武井武雄は「子どものための芸術こそ、本物の芸術でなければならぬ」という信念をもって「童画」というジャンルを提案しました。

武井は『コドモノクニ』をはじめ、『少女画報』や『金の船』といった画期的な子ども向け雑誌を舞台に表紙や挿絵を描き、「童画家」として人気を博します。昭和二年には初山滋や岡本帰一らと



武井武雄

日本童画家協会を結成し、現在につながる日本の絵本文化の礎を築きました。武井が生涯描き続けた童画には、空想世界の魅力あふれる住人たちが登場し、自由自在にものがたりを繰り広げます。そうした武井の豊かな感性や創造の源はどこにあったのでしょうか。

明治二十七年、現在の長野県岡谷市に生まれた武井武雄は、病弱な幼少期を過ごし、十二歳の時には死の淵をさまよう大病を患いました。兄弟もなく、同世代の子どもたちと一緒に過ごす機会に乏しかった武雄少年は、いつしか心の中に「ミト」という架空の友をつくり、空想の世界で一緒に遊ぶようになっていきました。

「兄弟のない自分はいつも「ミト」といふものと呼んでは遊んだミトはいつでも逢い度い時には 呼べばどんな處へでも来た 林檎の木の上で呼ぶ事もあるし寝床の夜具の襟に來たり、なめてゐる金平糖の芯からポイと出たりした…」

（『戦後気儘画帳』より）

武井の作品に登場するさまざまな動物や妖精たちは、その時々姿をかえて出てくるミトなのかもしれません。うれしい時もかなしい時も、いつも寄り



《ふしぎな村》1967年 水彩、クレヨン／紙

添うミトと育んだ友情こそ、子どもの心にもつすぐ届き、大人の心の琴線をふるわせる武井の幻想作品の原点といえるのではないのでしょうか。そうした武井フアンの一ひたりが、黒柳徹子さんです。『木にとまりたかった木のはなし』は、黒柳さんの文章と武井武雄の絵による絵本。枝にとまった鳥たちから世界各地を見てきた話を聞いた木が、自分も世界を旅して木にとまってみたいと願うお話です。黒柳さんが画作を依頼して絵本づくりが始まりますが、残念なことに制作の途中で武井が他界し、娘の三春さんによって、残された童画の中から物語に合う絵が選ばれました。本展では、黒柳さんがご自分の文章に



《地上の祭》1938年 銅版



《星曜日》1965年 水彩、クレヨン／紙



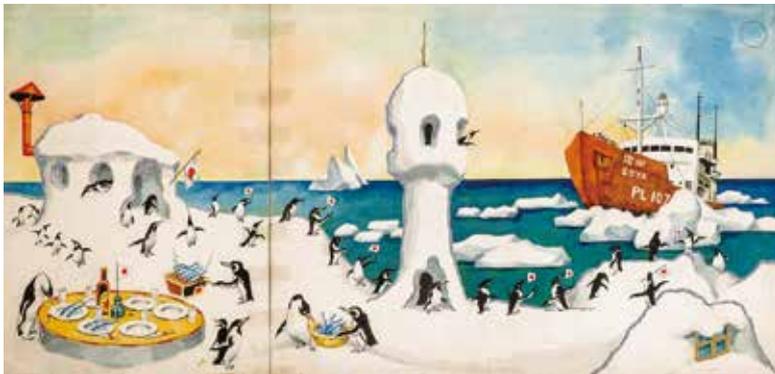
『コドモノクニ』創刊号 1922年1月号



刊行本と刊行作品専用箱



新装版『木にとまりたかった木のはなし』  
(作:黒柳徹子、絵:武井武雄、河出書房新社、2023年)



《ペンギンのおむかえ》1957年 水彩、クレヨン／紙 (『たのしい幼稚園』講談社、1958年1月号載)

びったりで感激したという『木にとまりたかった木のはなし』の原画をご覧いただけます。  
昭和十年から昭和二十九年まで、武井は日本版画会を代表する作家から一般の版画愛好家を対象に、版画による年賀状交換会を主宰しました。この「榛の会」(第2回まで名称は「榛交の会」)では、恩地孝四郎や棟方志功、川上澄生らが名を連ね、趣向を凝らした年賀状を交換し合いながら創作版画の技術向上を担いました。今回、展覧会に併せて、当館のコレクションから「榛の会」

の作家の作品を特別展示いたします。  
童画のパイオニア・武井武雄の代表作、さまざまな版種による前衛的な版画作品、精巧で独創性に満ちた「刊本作品」など、本展ではその多岐に渡る芸術世界をご紹介します。長野県岡谷市のイルフ童画館にご協力いただき、童画や版画、本、玩具など貴重な作品約300点が一堂に会します。希代のマルチャーターティスト、武井武雄の幻想の世界をどうぞおたのしみください。  
(永山多貴子)

## 武井武雄展

～幻想の世界へようこそ～

2025年4月19日(土)～6月22日(日)

休館日:毎週月曜日(5月5日開館、5月7日休館)

主催:郡山市立美術館、中日新聞社、岡谷市

企画協力:イルフ童画館

観覧料:一般 800(640)円

高校・大学生 500(400)円

小・中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方無料



イルフ童画館

## イルフ童画館

童画、版画、刊本作品、玩具など武井武雄の芸術を楽しむことができる唯一の美術館。「イルフ」とは武井の造語で、「フルイ」を逆さまに読んだ「新しい」という意味です。

長野県岡谷市中央町 2-2-1

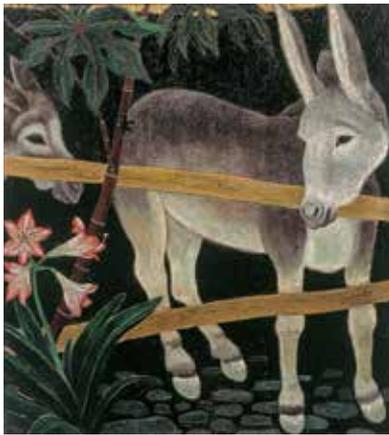


図1《ロバ》1928年 愛媛県美術館

KITAGAWA TAMIJI Retrospective: From MEXICO to JAPAN

生誕  
130年  
記念

# 北川民次展

メキシコから日本へ

2025

1.25 sat ~ 3.23 sun

メキシコに渡る前、北川はニューヨークのアート・スチューデント・リーグで画家のジョン・スローン（1871—1951）に学びます。彼から教わったのは、民衆の実相を描き、物事の本質を捉える姿勢でした。これは北川に大きな影響を与え、その後の制作の礎となったといえるでしょう。メキシコ滞在期には、北川は先住民と深くかわりながら暮らし、一民衆として彼らに共感をもって作品を描きました。《ロバ》（図1）では、人々とともに生きる動物として不可欠なロバを愛情深く表現しています。そのまなざしは、晩年まで過ごした瀬戸の人々や風景にも向けられました。



図2《白と黒》1960年 刈谷市美術館

1921年、北川民次（1894—1989）は27歳でメキシコに渡り、画家、教育者として出発しました。約15年間のメキシコ生活ののち、1936年に帰国して東京や愛知を拠点に活動します。メキシコから日本へ——特異な歩みのなかで彼が見出し、生涯大切に持ち続けたものはなんだったのでしょうか。

革命を経た1920年代のメキシコでは、自国のアイデンティティや革命の意義を民衆に伝える壁画運動が巻き起こっていました。この芸術運動を目の当たりにした北川は、社会に深くかわる制作のありかたに共鳴します。帰国後も、安保闘争に刺激を受けた《白と黒》（図2）のように、社会への強い想いが反映された作品を多数制作しました。1950年代後半からは、念願の壁画制作にも携わります（図3）。



図3《瀬戸市立図書館陶壁原画 勉学》1970年 瀬戸市美術館

もうひとつ、本展で焦点を当てているのが、教育者としての側面です。北川はメキシコと日本で、子どもたちの美術教育に携わりました。自由に描かせ、ときには数日一緒に遊ぶことに徹するという型破りな教育方法でしたが、そこには、美術をとおして、自由を希求する豊かな精神を育もうという北川の想いがありました。また、北川にとって生徒は先生でもあったのです。体験に基づく認識や感情までも描き出す彼らの姿勢に感銘を受け、自らの制作に活かしていきました。

時流に翻弄されながらもたくましく生きる人々を見つめ続け、信念をもって社会を描き出した画家の力強い作品の数々を、どうぞご覧ください。

（新田量子）

## 企画展

「生誕130年記念 北川民次展—メキシコから日本へ」

2025年1月25日（土）～3月23日（日）

※会期中（2月26日（水）～）に一部の作品の展示替えがあります。

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（ただし2月24日は開館、2月25日休館）

入場料：一般／1,000（800）円

高校・大学生、65歳以上／700（560）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館

# 平間至展 写真のうた

2024年7月6日(土)〜8月25日(日)

平間至 スペシャルトーク  
7月6日(土) 午後2時から

企画展「平間至展 写真のうた」初日に「平間至 スペシャルトーク」を開催しました。平間さんにとって写真とは、撮影とは…たくさんのギャラリーのなか、展示室を歩きながら語っていただきました。

**Q** 宮城県塩竈市にある老舗写真館の三代目のお生まれですが、どんな少年時代を過ごされたのでしょうか？

**平間**…物心ついた時から写真だけでなく、音楽があたりまえのように身近にありました。祖父がヴァイオリンを弾いたりクラシック音楽を聴く人だった影響もあって、幼稚園前からヴァイオリンを習っていました。中3くらいから自分で音楽を聴き始めましたが、パンク音楽でした。僕にとって写真と音楽は分かちがたいんです。

**Q** CDジャケットや雑誌、タワーレコードのキャンペーンポスター…これまで数多く手がけたミュージシャンの撮影についてお聞かせください。

**平間**…演奏しているミュージシャンとセッションして、縦横無尽に動きながらシャッターを押すのが僕のスタイルです。僕にとってカメラは楽器なんですよ。時には、撮る側と撮られる側がお互い真剣にすごいエネルギーを出し合って、一発勝負になります。

**Q** この展覧会には、平間さんのご家族の写真や、平間写真館で撮影されたいろんな方の写真が展示されています。みんな

すごくいい表情でそれぞれ思い入れのあるテーマがあつて構図やポーズもとても印象深いのですが…。

**平間**…僕はどんな家族でも、家族というのはそもそも不安定だと思っています。だからこそ、ハレの日や記念日に家族がそろって写真を撮ることに大きな意味がある。いい表情と構図がシンクロするのはほんとうに奇跡の瞬間なんです。それを逃したくないですね。カメラと写真を信じてひたすらシャッターを切っています。

**Q** 撮影するときにはたいせつにしていることについてお聞かせください。

**平間**…語りつくせません(笑)。田中泯さんを撮影した「場踊り」のシリーズが今回展示されていますが、いつも思い出す泯さんのことばがあつて…「相手を理解することは相手を引き受けること」って。僕はクラシックもパンクもロックもいろんな音楽を聴いてきて、それがいろんな人の価値観を受け入れることにつながっていると感じています。自分の経験と音楽を通じて被写体にずっと向き合ってきたし、これからもそうだと確信しています。

## 平間 至 (ひらま・いたる)

1963年、宮城県塩竈市に生まれる。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、写真家・伊島薫氏に師事。タワーレコード「NO MUSIC.NO LIFE.」のキャンペーンポスターをはじめ、多くのミュージシャンの撮影を手がける。2006年よりゼラチンシルバーセッションに参加。2008年より「塩竈フォトフェスティバル」を企画・プロデュース。2012年より塩竈にて、音楽フェスティバル「GAMA ROCK FES」を主宰。2015年1月、東京・三宿に平間写真館TOKYOをオープン。



## 追悼 湯浅譲二氏

郡山市出身の作曲家湯浅譲二氏(昭和四年生まれ)が令和六年七月二十一日に九十四歳で逝去されました。世界を舞台に作曲家として活躍された湯浅氏を追悼し、貴重な楽譜などの一部を特別展示しました。(令和六年十月二日〜十二月二十七日 於…常設展示室3)



湯浅譲二氏は、「作曲とは、自らのコスモロジー(宇宙観)の反映である」を信条とし、生涯前衛であり続けました。医学を志すも音楽への情熱に突き動かされ、ほとんど独学で作曲家の道を歩みます。一九五〇年代には実験工房のメンバーに加わるなど、戦後早い時期から音楽や美術、映像などを横断する表現活動に関わりました。だれも耳にしたことのない「未聴音」を追求し、一九六〇年代から世界に名を馳せました。湯浅氏は、自身の内側から湧き上がってくる「音響」のイメージをグラフィに定着させる手法を用い、壮麗なまでの自筆グラフィックを記しました。

当館では、二〇〇七(平成十九)年に開館十五周年を記念して「Yuzasa Joji」による「湯浅譲二展」を開催し、湯浅氏の音楽芸術と、創造の源泉となる美術作品などを紹介しました。

「創造とは、イミテーション(模倣)ではなく、自分で考え、自ら創り出すことなのです。」と語り、世界を舞台に九十歳を超えても第一線で活躍した湯浅氏。その原風景は、故郷郡山の、冬の青空に風花の舞う安積平野、そして創作の原点は、安積に根ざした開拓者精神でした。



# 奇想の版画

帝都プラハを交差するヨーロッパ版画

1500-1650

現在チェコの首都である古都プラハは、十六世紀末から十七世紀初頭にかけて、神聖ローマ帝国の首都として繁栄しました。この時代に皇帝として君臨したハプスブルク家のルドルフ二世（在位一五七六―一六二二）は、稀代の収集家、そして当代随一の美術愛好家として広く知られています。彼の治世のもと、プラハはヨーロッパの文化芸術の一大拠点となり、北方マニエリスムという当時の北方で最先端の美術様式を発信しました。



図1 アルブレヒト・デューラー《ネメシス(大運命神)》1502年頃 エングレーヴィング・紙 町田市立国際版画美術館

今回の展覧会では、十六世紀から十七世紀の西洋版画のなかでも、ルドルフ二世が収集した版画家の作品(図1)と、ルドルフ二世の宮廷との直接の関係下で制作された作品(図2)を中心に紹介しました。結果として版画の歴史をたどるような章構成となり、現在の版画



図2 バルトロメウス・スプランゲル原画、ヤン・ミュラー版刻《ヘラクレスとマルスに導かれるミネルヴァ》 エングレーヴィング・紙 国立西洋美術館

史に名を残す作品が当時から高く評価されていたことが改めて浮かび上がりました。とくに、ルドルフ二世は、アルブレヒト・デューラーの熱狂的な愛好家として知られます。そのため、版画界の伝説的存在であるデューラーの作品をまとめて鑑賞することのできる貴重な機会となったことも、本展の魅力のひとつだったといえるでしょう。

また、印刷物である版画は、一点ものの油彩画などと異なり、大量に生産されました。それゆえに、意外なほど多くの西洋近世版画が日本国内にも存在しているのです。今回の展覧会では、町田市立国際版画美術館や国立西洋美術館のように、近世版画を含む西洋版画コレクションで知られる館のほか、東日本の美術館や図書館に点在する貴重な版画作品も一堂に会しました。実は、

主に十八世紀後半以降の西洋版画を所蔵する当館にも、十七世紀の西洋版画が一組あります。それがフランスの版画家ジャック・カロの代表作『戦争の惨禍(大)』(図3)です。この作品は、当館の明治版画コレクションにある政治小説『佳人之奇遇』の挿絵の手本となつたため購入されたようであり、本展の掉尾を飾ることで、当館のコレクションと展覧会をつなぐ役割を果たしました。

このように、本展では多くのご所蔵者のご協力により、一七三点の版画作品をとおして近世西洋版画の豊かな魅力をご紹介しました。名品でありながら、どこか奇妙で不思議な作品がたびたびあります。奇想の版画世界をご堪能ください。

(川上恵理)



図3 ジャック・カロ『戦争の惨禍(大)』1633年 エッチング・紙(本) 当館蔵

## 展覧会情報 奇想の版画 1500-1650

帝都プラハを交差するヨーロッパ版画  
2024年11月9日(土)～12月27日(金)  
主催：郡山市立美術館  
特別協力：町田市立国際版画美術館

### 講演会「内的素描を追い求めて 奇想の版画の作品世界の特質と魅力」

2024年11月24日(日)  
場所：多目的スタジオ  
講師：栗田秀法さん  
(跡見学園女子大学教授)



### 特別ギャラリートーク

2024年12月14日(土)  
場所：企画展示室  
講師：藤村拓也さん  
(町田市立国際版画美術館学芸員)



### 学術シンポジウム

「近世ヨーロッパ版画の諸相」  
2024年12月7日(土)  
後援：美術史学会  
場所：多目的スタジオ

発表：川上恵理(当館学芸員)  
深谷訓子さん(京都市立芸術大学准教授)  
足達薫さん(東北大学教授)  
保井垂弓さん(金沢美術工芸大学名誉教授)  
司会：坂本篤史さん(福島県立美術館学芸員)



### 企画展

奇想の版画  
1500-1650  
帝都プラハを交差する  
ヨーロッパ版画

### 関連

会期  
2024年11月9日(土)  
～12月27日(金)

# Report

## ワークショップ

「手作りして夏を楽しむキャンドル & 型染め手ぬぐい（会津型）」

2024年7月28日（日）

場所：創作スタジオ

講師：てんあい堂



## ワークショップ

「岩絵具で描いてみよう！」

2024年8月18日（日）

場所：創作スタジオ

講師：中村亜都子さん（画家）



## ワークショップ

「体験！ビュランで彫る 木口木版画」

2024年9月22日（日）、23日（月・祝）、

29日（日）、10月5日（土）

場所：創作スタジオ

講師：野口和洋さん（版画家）



## ワークショップ

「銅版画 エングレーヴィングを楽しむ」

2024年12月14日（土）、15日（日）

場所：創作スタジオ

講師：楊佳さん（版画家）



## 第16回 風土記の空～郡山市内の中学校美術部による作品展～

会期：2024年11月19日（火）～12月27日（金）

場所：美術館ギャラリー

参加中学校：行健中学校、安積第二中学校、三穂田中学校、喜久田中学校、郡山第三中学校、郡山第四中学校、緑ヶ丘中学校、富田中学校、小原田中学校、宮城中学校（計10校）



## 企画展「平間至 写真のうた -PHOTO SONGS-」関連

会期：2024年7月6日（土）～8月25日（日）

「平間至スペシャルトーク」

2024年7月6日（土）

場所：企画展示室

講師：平間至さん（写真家）



トークイベント「平間至×箭内道彦」

2024年8月4日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：平間至さん（写真家）

箭内道彦さん（クリエイティブ・ディレクター）



「田中 浜一場踊り」ライブ・フォトセッション

2024年8月24日（土）

場所：階段ホール

出演：田中 浜さん（ダンサー）、平間至さん（写真家）

岸本智也さん（プロジェクション）

## 企画展「大正イマジユリの世界 ～モダンデザインの饗宴～」関連

会期：2024年9月7日（土）～10月27日（日）

講演会「大正イマジユリの世界」

2024年9月7日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：山田俊幸さん（本展監修者、元帝塚山学院大学教授）



## ミュージアムコンサート

「20世紀クラシック&モダン音楽への誘い」

2024年10月26日（土）

場所：階段ホール

出演：倉富亮太さん

（ヴァイオリン）

大塚菜々子さん

（ピアノ）



表紙の  
作品



佐藤潤四郎 《オブジェ・ガラスを吹く人》

金工（鍛鉄） 当館蔵

郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎の作品には、しばしば愛らしいキャラクターが登場します。「ガラスの神様」と呼ばれるそれらのキャラクターは、ガラスをつくる職人たちをモチーフに潤四郎が生み出しました。本作もその仲間のひとつで、ガラスを吹く職人をあらわしています。ガラス工芸家として知られる潤四郎ですが、東京美術学校の金工科を卒業しており、本作のような金工の作品も残しています。

# Information

第1回

## 風土記の丘から

日本大学工学部建築学科 卒業設計作品展

会期：2025年2月11日(火・祝)～24日(月・休)

主催：日本大学工学部建築学科、郡山市立美術館

場所：美術館ギャラリー(入場無料)

日本大学工学部建築学科の学生たちによる卒業設計作品展です。

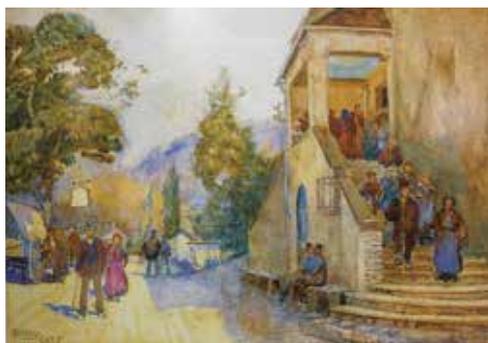


## 令和5年度新収蔵作品

令和5年度もみなさまのご協力により、新たに作品を収蔵することができました。麻生三郎の油彩画1点、土橋醇の版画1点、サー・アルフレッド・イーストの水彩画1点の計3点です。

また、土橋醇の油彩画7点、荒木寛畝の日本画1点、佐藤潤四郎のガラス3点、陶板1点、三木宗策の彫刻3点、明治期の版画などのコレクション86点の計101点をご寄贈いただきました。

新たに収蔵した作品は、常設展などで順次展示していく予定です。



サー・アルフレッド・イースト《クールマイヨール風景》  
1895-1905年頃 水彩・紙

## 常設展示のご案内

2025年1月25日(水)から

- 1 続・雰囲気を展示する
- 2 草花を愛でるI
- 3 イギリス美術の広がり
- 4 北川民次の版画／  
佐藤潤四郎とガラスの神様

## TOPICS



営業時間／11:00-17:00  
電話／024-942-2250

### 【ランチメニューのご案内】

#### ●週替わり

ワンプレートごはん **¥1,100円**

ランチタイムにおすすめするワンプレートごはん。  
新鮮なお野菜をたっぷり使用し、お肉や魚介のメインのおかずや  
カレーなどの煮込み料理などメニュー内容は毎週替わります。

#### ●季節限定パスタ

ミニサラダ付き **¥1,300円**

旬の食材を使用したパスタは不定期で  
内容が替わります。

#### ☆ランチタイムサービス

15:00までにお食事をご注文のお客様  
に限り、お飲み物がセットになります。  
(コーヒー・紅茶・ウーロン茶)



食材がなくなり次第お食事  
メニューの提供は終了となり  
ます。  
ご注文はお早めどうぞ！  
(※メニュー内容・使用食  
材は変更となる場合があり  
ます)

郡山市立美術館  
Koriyama City Museum of Art

発行日／令和7年2月13日

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2  
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350  
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

敷地内禁煙



web Facebook Instagram